

継承と発展

旧蒲原宿における職住一体の暮らしの場の提案

近代化が進化する前の暮らしと生業の関係は、今日大きく変化している。ライフスタイルも変化し、人の価値観の多様化が進んでいる。伝統的な住宅の形式に着目することで、今日の多様化するライフスタイルのひとつに思える。新たな暮らし方を提示できる可能性があると思えた。静岡市蒲原町は江戸時代、宿場町として栄えたが人口減少の一途を辿っており、宿場の町並みが薄れつつある。ライフスタイルや人との関わり方が変化してきた今日において、建築も形態を変える必要がある。東海道に対して建物の軸を90度ふり、和小屋を「本柱」で支える新たな架構を提案する。新たな人と建築の関係を作り出す。

01 静岡県静岡市清水区蒲原町について



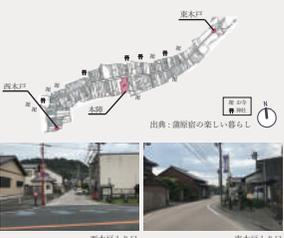
01-1 蒲原宿

江戸から数えて東海道の三宿目蒲原宿。蒲原宿は、東海道の宿所である。単に川と露筋に挟まれ、江戸後期に徳川重定によって描かれた「蒲原夜更」は東海道五十三次の中の一つである。

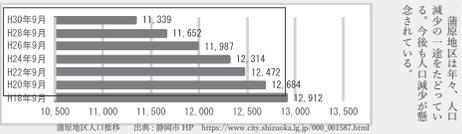


01-2 町の形状

元禄期の洪水の被害を受け、宿場を山側に移るは海に面した町である。北折れ曲がりとして、旧東海道に沿って国道が通れることが多く、蒲原宿は宿場の形が遺っている。宿場のまま残されている。道路幅は本陣のある町の中心部には広く、移後の路筋が、宿場の中心部には狭く、街道が垂直に細い路地が形成され参道となっている。各家の間口や奥行きも中心部につれて大きくなる。



01-3 人口推移



01-4 移住者と拠点居住者



01-5 観光



01-6 お祭り

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
月	小正月	おひなまつり	お雛まつり	おひなまつり								
お祭り	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり	お雛まつり

01-7 神様

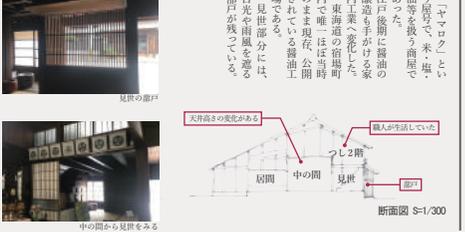


02 調査・分析

蒲原宿には蒲原の古い特徴的な建物が残っており、歴史的な街並が形成されている。古い建物の中から、増改築の様子が特徴的なものについて調査を行った。



② 志田邸 国登録有形文化財



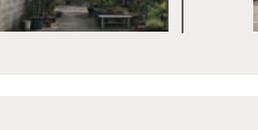
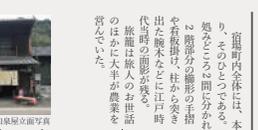
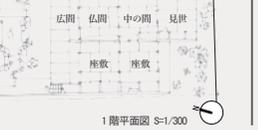
① 増田家



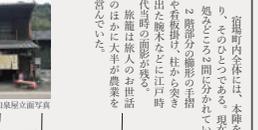
⑦ 古田家



③ 旧五十嵐商材 国登録有形文化財



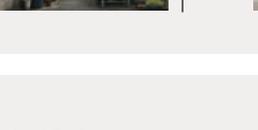
⑥ 旅籠和泉屋 お休み処



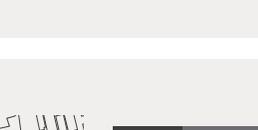
⑤ 水陣跡 佐藤家



⑧ 佐藤家



⑨ 渡邊家



④ 蔵部家



⑧ 渡邊家



④ 蔵部家



03 プログラム・計画敷地

旧蒲原宿を調査エリアとする。現在、蒲原町は人口減少が進んでおり、蒲原宿には歴史的な街並が残っている。拠点居住者と移住者の両方から、調査・計画・設計を行う。

03-1 敷地決定



03-2 敷地分析



03-3 配置計画



03-1 プログラム

拠点居住者や移住者は地帯の中でコミュニティに関心をもち、場合によっては、地域コミュニティが生まれる。蒲原宿は地帯の中でコミュニティを形成すること、地域の活性化につながる。調査・計画・設計を行う。

プログラム	敷地分析
観光工房 職人住居	観光は、旧蒲原宿内でも生業として行われており、職人の住居と観光工房を兼ねることで、文化を継承する場となる。
建築工房 木工住居	蒲原宿北側には山があり、対象エリアでも緑豊かな環境が保たれている。木工工房と住居を兼ねることで、職人の住居と木工工房を兼ねる場となる。

プログラム	敷地分析
カフェレストラン コミュニティ 住居	蒲原宿から歩道橋を渡り、すぐの敷地である。敷地南側には商店街があり、北側には緑地や公園があることから、様々な人が行き交う。
駅前施設 住居	蒲原宿駅付近には駅がある。駅前には、新たなライフスタイルを築くことのできる店舗が必要と考えられる。



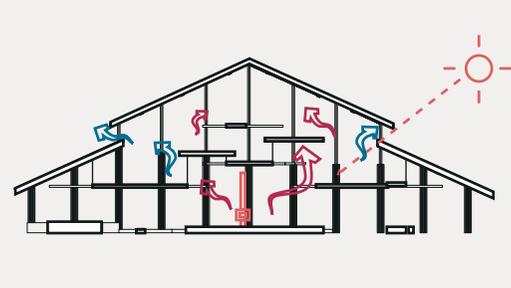
04. 古い建物から継承する要素

旧市街地であること、歴史的な建物が継承されている。古い建物から今日に効用のある要素を継承する。



05. 設備計画

新ストーブを主体にあためる。長屋並みの間接な空層間で安定した光をとるため、屋根を分積させる。



06. 設備計画

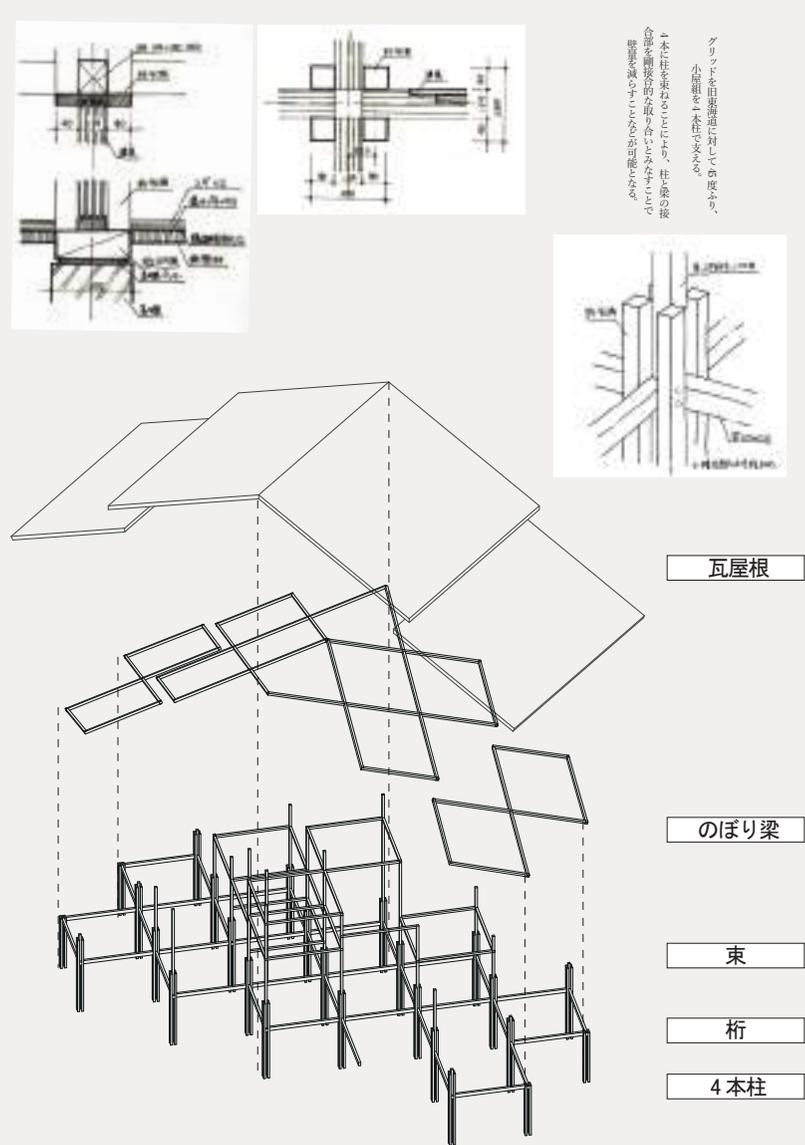
それぞれの礎を柱底の積載するプログラムにあわせて、底を意味づけ計画する。



- 神楽心庭：
サカキ / ヒイラギ / センリョウ / ヤブコウジ
- 料理の庭：
ゲクゲイジュ / サンショウ / チャノキ
- 花木の庭：
ハナカイドウ / フツジ /
ペニバトキ / マンサク / コトネアスター

07. 構造計画

「5度」ふられた和小屋を支える「4本柱」

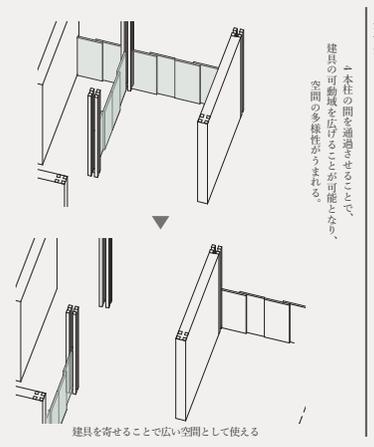
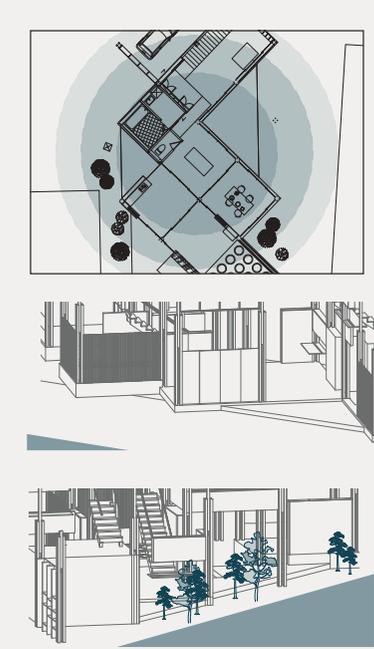
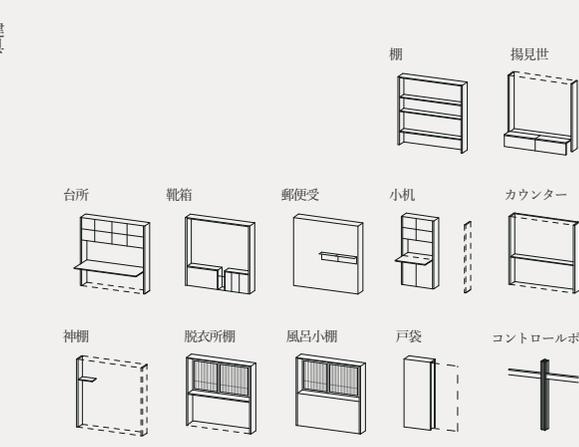
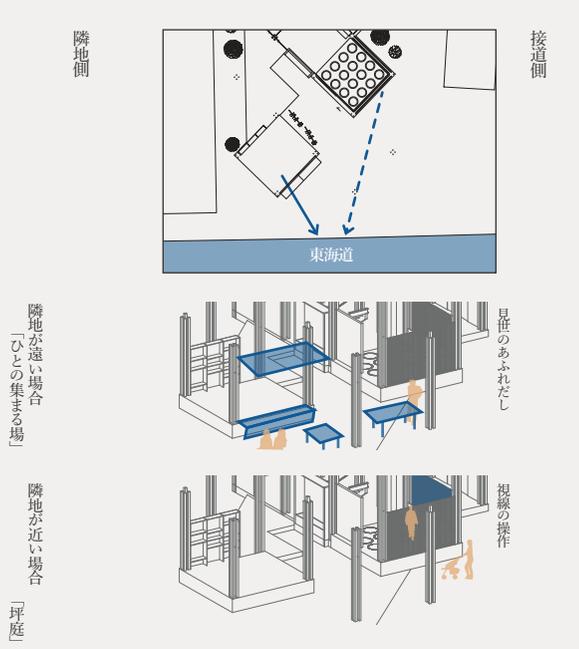


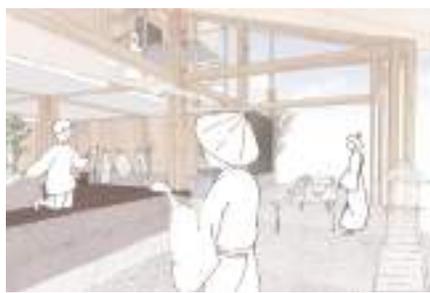
「45度」の軸をふるることによる効果

留置の町並みは東側に並行に立面が立ち上がっている。町並みは水平性を保ち、統一された視線を構っている。ライフスタイルや人の関わり方が変化してきた今日において、建築も同様に形態を変え、ミニニケーションの場を作る必要があらわされた。
「45度」がふられることで各所に繰り込まれた面がうまれる。

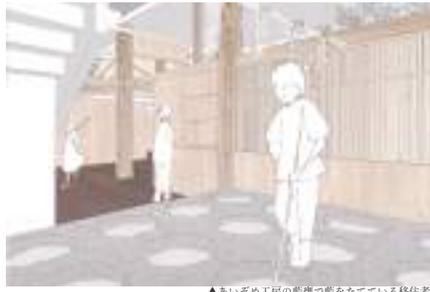
「4本柱」による効果

105度の柱比は「4本柱」は壁に「壁」の厚みをもたせるとができる。古い柱に「壁」を付け足す間接な方法で、28mmの厚みに「4本柱」を付け足す。「4本柱」を柱比「105度」にする。





▲みせ部分を東海道側からみる。藍染商品が並び販わう。



▲あいぞめ工場の藍染で藍をたてている移住者。



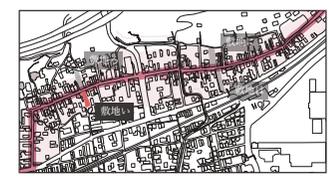
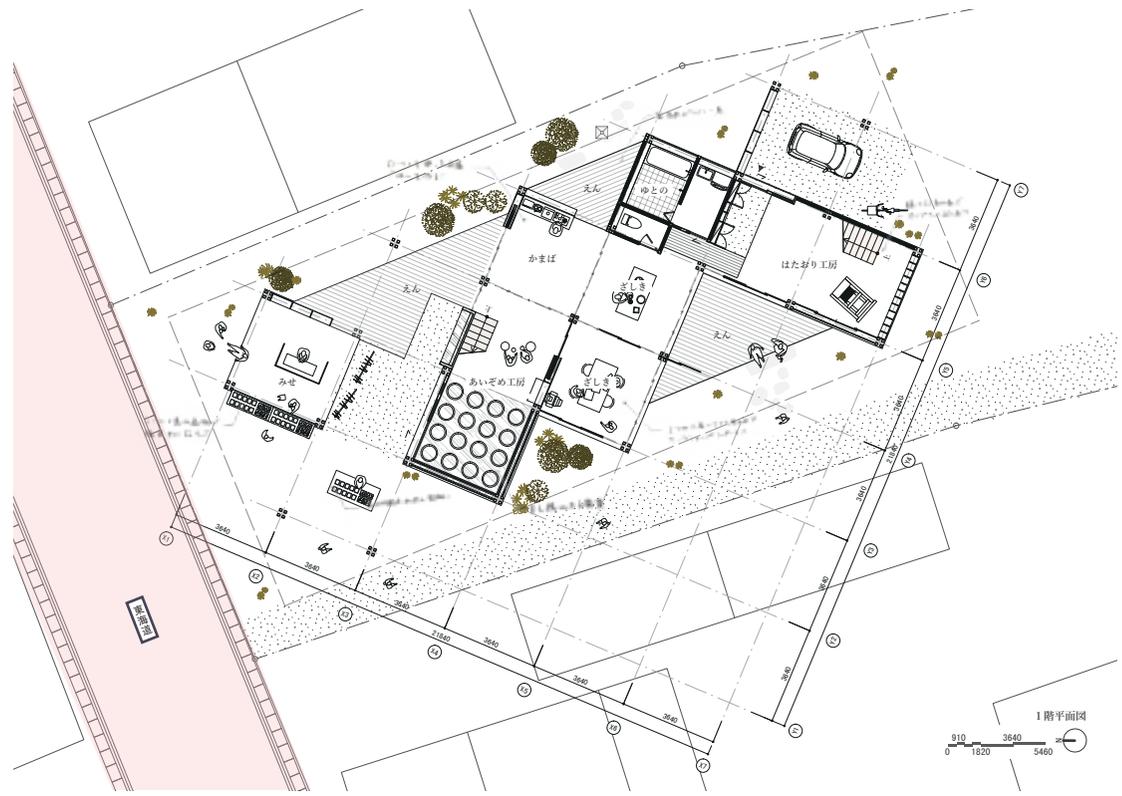
▲いまからあいぞめ工場を見下ろす。



▲なかのまをみる。階段の一部が机の天板にもなる。

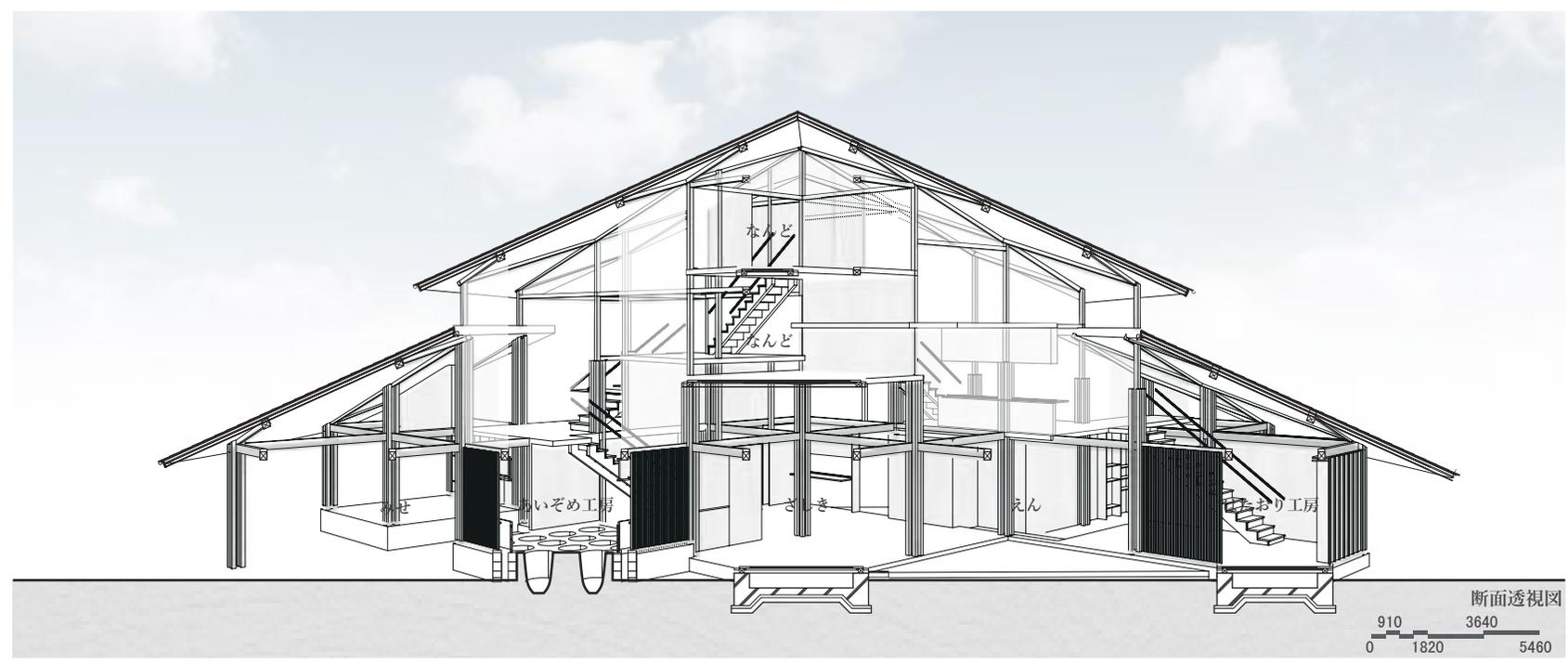


▲えんをみる。階段、ざしきを打ち合わせに使うこともできる。



対象 : 移住者
 プログラム: あいぞめ工場, はたがり工房, みせ, かまぼ, ざしき, ゆとの, なかのま, いま, なんと

蒲原宿内には軒、宿外には一軒の藍染屋があった。蒲原の移住、職人たちは藍の工房に通っていた。戦後、藍染屋が毎年やってきていたとの口伝えがあり、昭和まで藍染があった。戦争により藍染は手廻りにならなくなったが、今でも藍を栽培し染色している。敷地は、藍染と染色のものとなる織機を産業とする移住者住居の計画である。志田邸と連携しながら蒲原の文化を継承していく。



断面透視図

910 3640 0 1820 5460

